筑紫の館に至りて、本郷を遥かに望み、棲愴して作る歌四首

三六五二番
志賀の海人の　一日も落ちず　焼く塩の　辛き恋をも　我はするかも

三六五三番
志賀の浦に　いざりする海人　家人の　待ち恋ふらむに　明かし釣る魚

三六五四番
可之布江に　鶴鳴き渡る　志賀の浦に　沖つ白波立ちし来らしも

三六五五番
今よりは　秋付きぬらし　あしひきの　山松陰にひぐらし鳴きぬ